

III. めざす姿の実現に向けた取り組みの方向性

3. ヒューマンな「都市環境」の形成に向けて

【めざす姿】 3. ヒューマンな「都市環境」の形成

・統一感のある都市景観を継承しつつ、ヒューマンスケールのまちなみ形成を図るとともに、人中心の道路空間への再編の動きと連動しながら、ヒューマンな「都市環境」の形成を図る。

めざす姿に向けた課題

■多機能化に伴いこれまでのまちなみの連続性を継承しつつヒューマンな視点からの都市空間の形成が必要

- これまでは統一感、連続性のある都市景観の形成をめざしてきたところ。
- 〔淀屋橋～本町間〕では、平成7年に制定された「御堂筋沿道建築物のまちなみ誘導に関する指導要綱」により、高さ50mのスカイラインの形成を目指し、これまで、11件の建物が建替えられてきた。
- 〔本町～長堀間〕では、平成7年度に策定した建築美観誘導制度で2mの壁面後退が誘導基準となっているが、既存建物については、必ずしも壁面の統一は図れていない。
- 今後、新たな魅力を備えたビジネス地区の形成や建物低層部でのにぎわい形成等を一層推進する中では、まちなみの連続性を継承しつつ「ヒューマン」な視点からの都市空間の形成が必要。

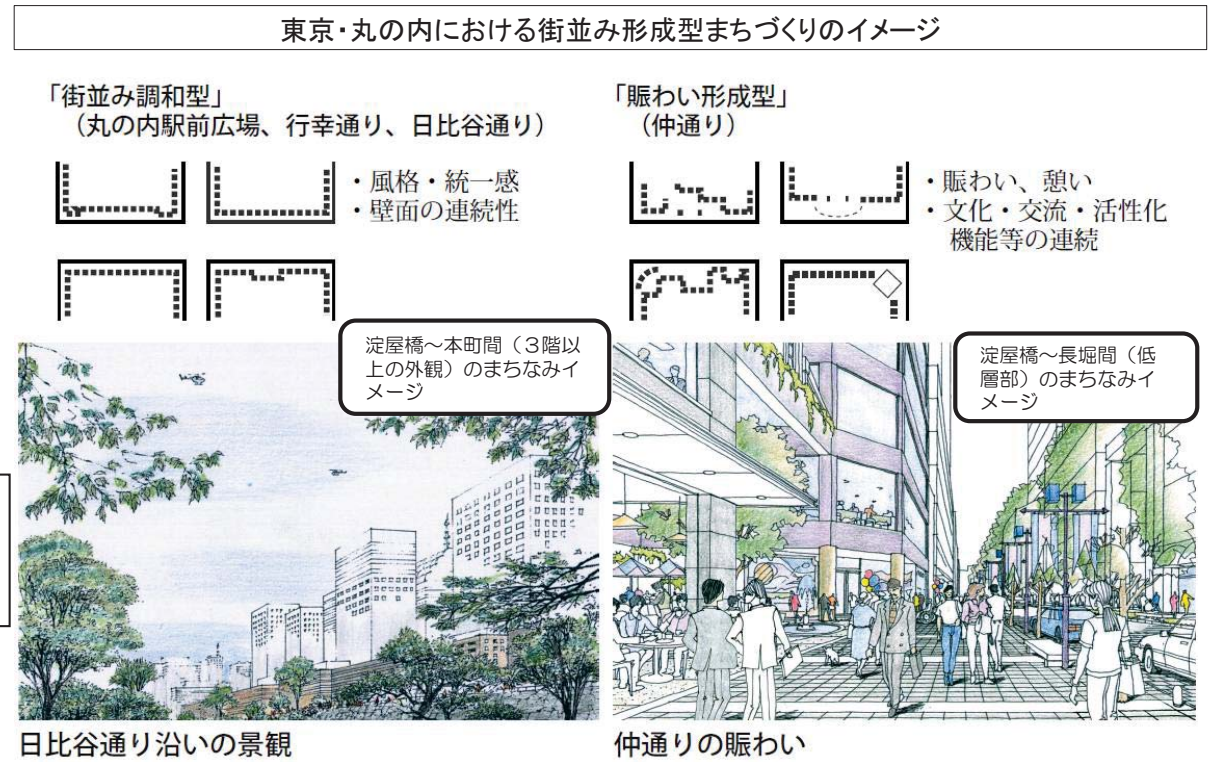
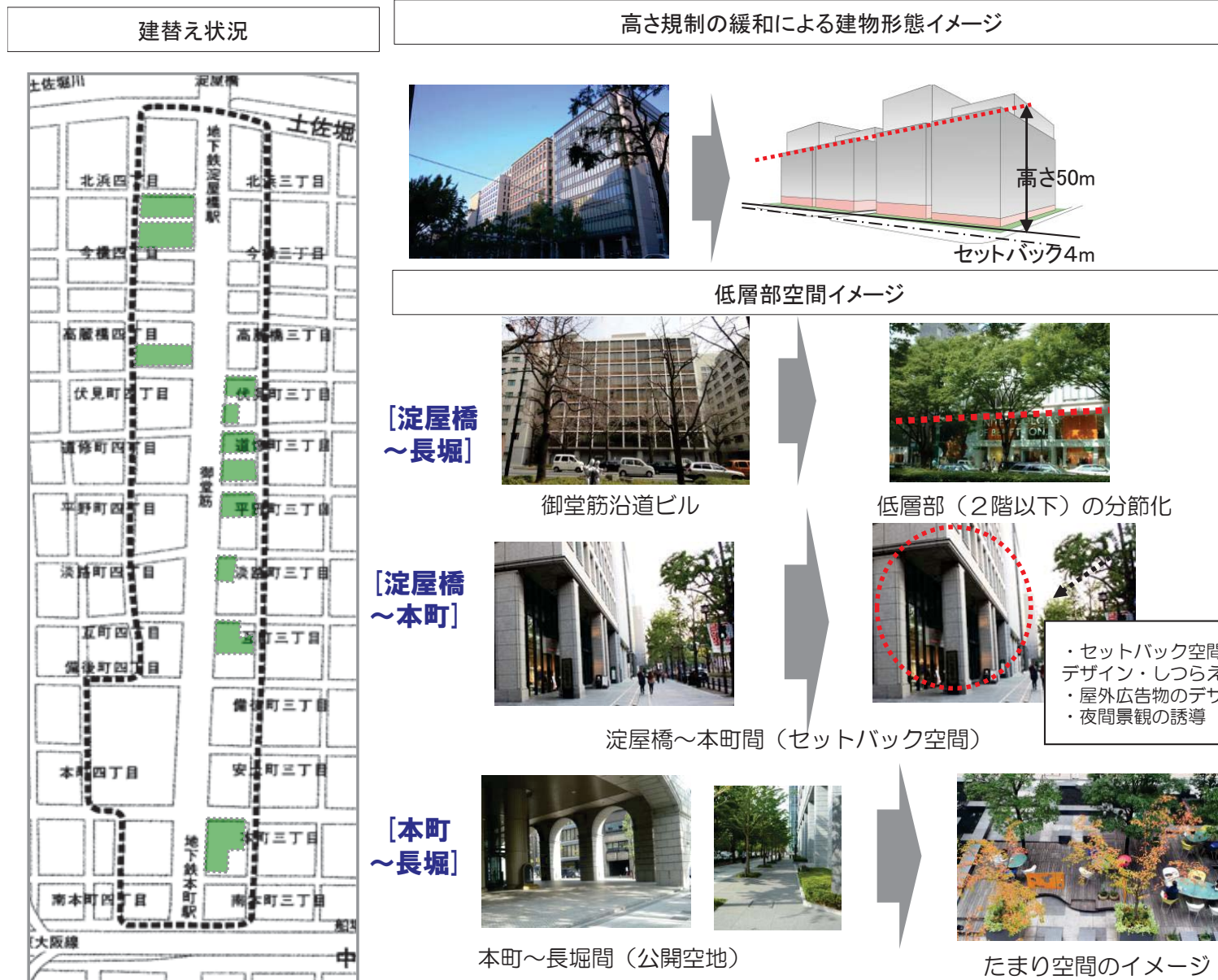
今後の具体的な方向性

■〔淀屋橋～本町間〕 これまでの都市景観を継承しつつ、街路と建物の親密感や一体感を醸成

- これまでの都市景観形成の歴史を活かし風格や統一感といったまちなみの連続性を継承しつつ、街路と建物の親密感や一体感を醸成させるために、50mの軒線を継承するとともに、壁面のデザイン誘導を強化する。
- 歩いて楽しいにぎわいを感じるヒューマンスケールのまちなみを形成していくため、低層部における機能誘導をとともに、デザインや屋外広告等についての誘導のあり方を見直す。

■〔本町～長堀間〕 にぎわいや憩いのあるまちなみを形成

- 低層部のヒューマンスケールのまちなみの形成とともに、歩行者の結節点におけるたまり空間など多用なオープンスペースを形成し、にぎわいや憩いのあるまちなみを形成していく。



出典) 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくりガイドライン」